



## エピック・ヘッジファンド・セレクション1 月次運用レポート

ケイマン諸島籍オープン・エンド契約型外国投資信託(追加型)

作成基準日

2013年8月31日

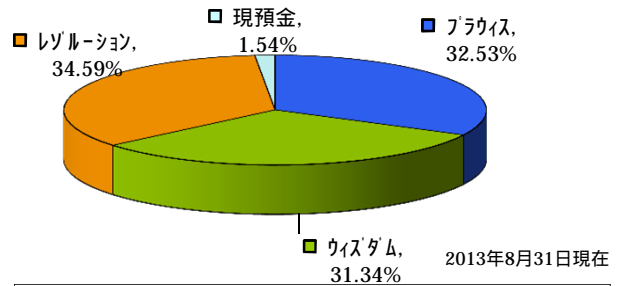
## 基準価額騰落率推移(諸費用控除後)

2013	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	年初来	
騰落率	3.32%	1.57%	2.01%	2.27%	2.77%	-0.68%	1.80%	-0.18%					13.56%	
2012	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	年初来	
騰落率	0.28%	1.22%	-0.21%	-0.83%	-3.36%	-1.32%	-2.12%	-3.02%	-0.45%	-0.17%	-1.51%	0.66%	-10.40%	
2011													12月	年初来
騰落率													-0.14%	-0.14%

## 運用実績

設定日:	2011年12月19日	
決算日:	毎年11月30日	
当初設定元本:	673百万円	
基準日:	2013年8月31日	
基準価額:	10,160	対前月比 -18円
純資産総額:	644百万円	対前月比 -1百万円
設定来高値:	10,178円	
設定来安値:	8,888円	
期間別	3ヶ月	0.93%
基準価額騰落率	6ヶ月	8.21%
設定来	ファンド	1.60%
基準価額騰落率	TOPIX	52.86%
	日経平均	59.36%

## 投資対象ファンドへの資産配分



各ファンドへの資産配分は、極力均等となるように調整していますが、時価の変動等によって差が生じています。

## 投資対象ファンドの基準価額騰落率推移(諸費用控除後)

2013	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	年初来
プライスイ	2.93%	1.07%	1.65%	3.95%	3.00%	-0.09%	1.11%	-0.32%					14.01%
ウィズダム	2.59%	2.09%	0.71%	2.09%	2.03%	1.19%	1.36%	0.44%					13.19%
レゾリューション	5.82%	2.76%	4.78%	2.00%	4.83%	-1.97%	4.08%	0.46%					24.88%

上記騰落率は投資対象ファンドの費用控除後の騰落率です。エピック・ヘッジファンド・セレクション1(以下「HFS」という)にかかるコスト等が含まれないため、投資対象ファンドの騰落率を資産配分結果で加重平均した場合、HFSの基準価額騰落率とは一致いたしません。

## 相場動向

8月の株式相場はTOPIXで-2.27%の1106.05ptとなりました。先月から続く4-6月期決算発表に注目が集まる中、好業績の銘柄等が買われ上昇して始まったものの、米金融緩和と政策の早期縮小懸念やアジアを中心とした新興国の通貨安と景気減速懸念、更には月末にかけてのシリア情勢の緊迫化から、下落基調となりました。

上旬は、米雇用統計に対する期待が強く円安ドル高が進み日経平均先物への買いが相場を牽引するも、期待値を大きく下回った米雇用統計を受けて円高が進み下落基調の相場となりました。4-6月期決算では業績の上方修正など好材料のある銘柄が買われましたが、期待の強すぎた銘柄は好決算を受けても調整するものが散見されました。

中旬は、夏期休暇で買いが少ない中、法人税減税などを材料に上昇するも関係者の発言を受けて下落しました。その後も米金融緩和と政策の出口戦略や国内の消費税増税の議論等9月に集中する重要イベントの前に様子見ムードとなり、方向感を欠く展開となりました。19日には東証1部売買代金が今年最低を記録しました。

下旬は、アジア株の軟調を受けて関連銘柄の大幅下落が散見されました。その後もシリア情勢の悪化を嫌気し、外需株を中心に下落基調が続きました。

セクター別では鉱業、海運業、不動産が上昇率上位となり、ゴム製品、電気・ガス業、その他金融が下落率上位となりました。

## 投資対象ファンドの運用状況と今後の市況見通し及び投資戦略

## 【プライスイ】

## &lt;ファンド運用状況&gt;

8月の運用成績は-0.32%となりました。8月中旬までは、企業の決算発表を受けてファンダメンタルに沿った形で株価が動いたことから、運用成績も堅調に推移しました。しかし、8月中旬以降は外部環境の不透明感が強まり、バリュエーションが効きづらい展開となったためパフォーマンスも悪化しました。

セクター別の損益は、機械、情報通信、化学セクターでプラスとなり、小売、電機、ガラス土石、その他金融セクターでマイナスとなりました。

## &lt;今後の市況見通し及び投資戦略&gt;

9月の株式市場は、引き続きもみ合いの展開を想定します。シリア情勢の緊迫化や米国の金融政策をめぐる思惑もあり、当面はリスクを取りづらい展開が続くと思われます。

今後の運用方針は、個別企業の業績・需給動向や国内外のマクロ動向を勘案し、相対的な割高・割安を適切に判断しながら、マーケットの上下に左右されない安定した収益の獲得を目指します。

## 【ウィズダム】

## &lt;ファンド運用状況&gt;

8月の運用成績は+0.44%でした。8月前半は決算発表を受けて好業績銘柄を中心に堅調に推移しましたが、シリア情勢の緊迫やアジア経済の不透明感から収益を押し下げました。

個別銘柄レベルでは、ロングポジションでは東栄住宅(8875)、住友大阪(5232)、ショートポジションではケースHD(8282)、ススキ(7269)がプラス収益に寄りました。

## &lt;今後の市況見通し及び投資戦略&gt;

9月の株式市場は緩やかな上昇を予想します。日銀の金融緩和と米国の金融引き締めを背景とする円安や世界経済の回復から底堅い相場展開を予想します。但し、新興国経済の更なる減速、シリア中東情勢の緊迫化、2020年夏季オリンピック東京招致の失敗等が株式市場の下落リスクとなります。

今後の投資戦略につきましては、クオンツモデルとトップアナリストによる投資評価の双方を活用し、銘柄選択により安定的な収益を目指します。

## 【レゾリューション】

## &lt;ファンド運用状況&gt;

8月の株式市場は、内需比率の高さからも相対的にやや小型銘柄優位となりましたが、月央以降大型株優位の展開が続いており、売買の減少と合わせ、引き続きバリュエーションの効きにくい状況にあります。

ポートフォリオは、エレクトロニクス、機械、サービスなどのセクターをオーバーウェイトし、小売りや食品セクターをアンダーウェイトしました。また、小型株ロング、大型株ショートの状態を維持しました。

業績回復となった有沢製作所(5208)や市場拡大の恩恵を受けている新電元(6844)のロングがプラス寄りと、業績足踏みからバリュエーションの低下となった一部内需株のロングがマイナス寄りととなりました。

## &lt;今後の市況見通し及び投資戦略&gt;

第一四半期の決算発表により、企業間格差の実態も確認されるなど、より事業実態に応じた株値評価が為される状況にあります。一方で、バリュエーション格差も拡大しています。

新興国市場の景況感に懸念が出てきているなど、ファンダメンタルがまだら模様であることから、やや外需に慎重なスタンスとし、業績好調な内需銘柄のバリュエーション修正を狙ったロング銘柄の組入を拡大させます。

上期決算に向けて業績実態の把握に努めながら、業績モメンタムの大きい割安株の組入を進めます。引き続き、成長力や競争力といった中期的な視点により割安銘柄と割高銘柄の選別を進めます。

全体として、バリュエーションを重視しつつも、グローバル要素の強い銘柄の組入を模索します。



# エピック・ヘッジファンド・セレクション1 月次運用レポート

## 投資信託の主な関係法人

管理会社:	インターナショナル・マネジメント・サービス・リミテッド
信託会社:	G.A.S. (ケイマン)リミテッド
管理事務代行会社:	エスエムティー・ファンド・サービス(アイルランド)リミテッド (旧ダイワ・ヨーロッパ・ファンド・マネージャーズ・アイルランド・リミテッド)
保管銀行:	スミト・ミツイ・トラスト(ユークイ)リミテッド (旧ダイワ・セキュリティーズ・トラスト・アンド・バンキング(ヨーロッパ)ピーエルシー)
投資運用会社:	エピック・パートナーズ・インベストメンツ株式会社 金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第432号 加入協会:(社)日本証券投資顧問業協会
代行協会員・日本における販売会社:	ヘッジファンド証券株式会社 金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第2580号 加入協会:日本証券業協会 <a href="http://hedgefund-sec.com/">http://hedgefund-sec.com/</a>

## 金融商品取引法に基づく表示

### 商号等

エピック・パートナーズ・インベストメンツ株式会社  
金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第432号

### 当社が加入する協会等について

社団法人 日本証券投資顧問業協会 加入 第011-01395号

### ご留意事項

当資料は投資信託の運用状況をお知らせするためにエピック・パートナーズ・インベストメンツが作成した資料であり、法令に基づく開示資料ではありません。

投資信託をお申し込みの際は、販売会社から投資信託説明書(交付目論見書)をお受け取りになり、その内容をよくお読みいただきご確認のうえ、お客様ご自身が投資に関してご判断ください。

当資料は特定の有価証券等の取得の申込み、投資顧問契約、投資一任契約の勧誘等を目的としたものではありません。

当資料内の運用実績等に関するグラフ、数値等は過去のものであり、将来の運用成果等を示唆または保証するものではありません。

当資料内のいかなる内容も、将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。

当資料は各種の信頼できると考えられる情報源から作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。投資信託は、株式等を投資対象としますので、組入株式の価格下落や、組入株式の発行会社の倒産や財務状況の悪化等の影響により、基準価額が下落することがあります。

したがって、投資家の皆様の投資元金は保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失が生じることがあります。運用管理費用、監査費用、その他の諸経費が、投資信託の保有期間に応じてかかりますが、事前にその上限を示すことができません。また、有価証券の売買等に係る手数料、租税等が発生しますが、運用の状況により変動しますので事前にその上限を示すことができません。

**当資料は、投資運用会社であるエピック・パートナーズ・インベストメンツが投資信託の運用状況をお知らせするために作成した資料であり、法令に基づく開示資料ではありません。**

**投資信託をお申し込みの際は、販売会社から投資信託説明書(交付目論見書)をお受け取りになり、その内容をよくお読みいただきご確認のうえ、お客様ご自身が投資に関してご判断ください。**